

関東・中部ブロック会議報告

- (1) 4/19～20、埼玉県熊谷市のマロウドイン熊谷にて28産地63名、パルシステムグループ37名、総勢100名の参加により、2019年以来4年ぶりに集合開催した。埼玉産直協議会「農・彩・土」および花園たまやの協力のもと、【資源高騰対応の取り組みと産地の魅力づくり】をテーマに進めた。
- (2) 冒頭、毛利生産者運営委員長（野菜くらぶ）より来賓ブロック役員および消費者幹事の紹介と共に、パルシステム新潟ときめき佐々木理事のオブザーバー参加が紹介され、続いて小川代表幹事およびパルシステム埼玉樋口理事長より開会挨拶がされ、樋口理事長からは「仲間として、お互いの気持ちを強められる会にできれば」「これからの産直や産地交流を話していきたい」と呼びかけられた。
- (3) 関東中部ブロック役員紹介では、今期より就任の坂入ブロック長（八千代産直）による挨拶がされ、椎名副ブロック長（村悟空）、倉林副ブロック長（沃土会）によるブロック役員体制が報告された。
- (4) 生消協、パルシステムグループによる方針および実績報告後、パルシステム埼玉報告では埼玉産直協議会『農・彩・土』の産地交流の取り組みと地産地消推進について、コロナ禍の3年の推移と取り組みについて、パルシステム埼玉詫間総務部長より動画を交えて報告された。
- (5) 埼玉産地報告として、南埼玉産直ネットワークの鈴木様より地域ごとの特色を生かした生産や都市型農業について、埼玉県産直協同の立石参事より帰国困難者生活支援事業への協力や新規就農・農福連携の取り組みについて、花園たまやの高橋代表取締役より自社配合飼料による資源高騰に対する取り組みについて報告された後、沃土会の高田生産者代表より開催を祈念しての挨拶、金井生産部総括より有機質肥料と微生物を利用した土づくりの取り組みが報告された。
- (6) グループワークでは開催テーマを踏まえた意見交換がされ、報告の中には「資源高騰による価格転嫁と消費バランスを考える必要がある」「商品の物語を伝え、オンライン交流を入口に産地交流への誘導を進めたい。」「物流が次の問題、産地同士が協力して物流を進めている、パルシステムには岩槻SCの入庫待ち解消を要望したい」などの報告がされた。
- (7) 消費者幹事・来賓ブロック役員のひとことでは、國見幹事より「価格高騰の中、商品の良さを組合員に広げ利用を進めたい。」と話され、JA新潟かがやきと共にパルシステム新潟ときめきによる次回開催予定報告がされた。最後に、坂入ブロック長よりブロック会議のまとめがされ閉会となった。
- (8) 翌日は沃土会の圃場とともにパルシステム熊谷SCを4つのグループに分かれ視察を行い、視察後については、感染対策の観点から2グループに分かれ、川浪消費者幹事および坂入ブロック長、戸谷消費者幹事および倉林副ブロック長よりそれぞれ2日間のまとめが報告され解散となった。

